

異常の発見

その感度や対応力を高めるために

日時

2019年7月16日（火）13:15～17:00（受付 12:45～）

場所

名古屋工業大学 4号館ホール
（JR鶴舞駅 下車徒歩7分）

定員

180名



■基調講演

仁科 健氏
愛知工業大学
経営学部 教授

■事例講演

古橋 智久氏
東海旅客鉄道(株)
執行役員
安全対策部長

■事例講演

溝口 浩二氏
日本製鉄(株)
名古屋製鉄所
品質管理部 部長

■事例講演

土屋 満智子氏
丸善石油化学(株)
営業本部 機能化学品部
品質保証グループ 担当課長

■パネル討論 パネルリーダー：仁科 健氏

パネラー：古橋 智久氏、溝口 浩二氏、土屋 満智子氏

参加費(税込)： 会員:4,320円 一般:5,400円 準会員:2,160円 一般学生:2,700円

申込みお問合せ： 一般社団法人 日本品質管理学会 中部支部 事務局
TEL:052-221-8318 FAX:052-203-4806 E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

申込締切： 7月9日(火)【先着順】

<基調講演> **すべては2Sから**



仁科 健氏
愛知工業大学
経営学部 教授

【講演要旨】 今回のシンポジウムは、決して目新しいテーマではありません。しかし、古くて新しい問題とも言えるのではないのでしょうか。異常に気づき、対応する力はどの時代でも要求される能力です。問題発見／問題解決の第一歩は気づきだからです。基調講演では、2Sを強調したいと思います。言うまでもなく、2Sとは整理・整頓です。気づきが多い職場、気づきが容易な職場にするには2Sが不可欠です。異常への気づきと、その対応の勘所は”比較”です。異常とは”いつもの状態と異なること”です。異常への気づきと対応には、比較基準となる”プロセスのいつもの状態”が見える化されていなければなりません。”プロセスのいつもの状態”が見える化するのには2Sの徹底です。

【略歴】 名古屋工業大学大学院修士課程修了。名古屋工業大学経営工学科 助手、同 生産システム工学科 講師、助教授を経て、名古屋工業大学大学院 教授。2018年から 愛知工業大学経営学部 教授 名古屋工業大学 名誉教授。

<事例講演> **気付いて実行する力を高める**



古橋 智久氏
東海旅客鉄道(株)
執行役員
安全対策部長

【講演要旨】 当社では、「日本の大動脈と社会基盤の発展に貢献する」という経営理念のもと、行動指針の冒頭に「安全」最優先を掲げ、その文化を職場に醸成し、人の実行力を高め、仕事のしくみを改善し、設備を強化することで、安全の確保に努めています。

昭和62年の会社発足以降「チャレンジ東海」活動を推進し、職場の活性化・社員の能力向上・業務の改善につなげることで会社の基盤を構築してきました。7年目を迎える「安全のための本質を探究する運動」では、「どうして」「どうなる」「どうする」の3つの「ど」を探究し、ルールや取扱いの本質を考えて気付きを得ることで納得感を持って実行できる人の育成を目指しています。また確実な業務遂行、不測の事態への適切な対応を行うために、実践的な「訓練」を繰り返し行っています。

鉄道を取り巻く環境は緩やかに時を経て大きく変化していますが、今後も一人ひとりが自らの果たすべき役割を認識し、気付いて実行する力を高め、より安全な輸送を提供できるよう努力していきます。

【略歴】 慶応義塾大学理工学部 卒業後、東海旅客鉄道(株)入社。総合技術本部 技術企画部 担当部長、新幹線鉄道事業本部 運輸営業部長を経て、2016年6月より、執行役員 安全対策部長。

<事例講演> **鉄鋼業での異常検知実例のご紹介**



溝口 浩二氏
日本製鉄(株)
名古屋製鉄所
品質管理部 部長

【講演要旨】 日本製鉄(株)名古屋製鉄所は、自動車用鋼板の製造拠点です。製鉄所という、24時間連続運転を前提とした「止められない」設備では、設備異常の早期検知の考え方が発達しています。また、鉄鋼他社で発生した不適切事案を踏まえた品質保証業務改革の中で、新たな異常(リスク)を発見しており、これは従来の仕事の仕組みでは気づけていない部分ですが、感度の変化(向上)の中で気づくことができました。鉄鋼業の事例ではありますが、設備管理や品質保証における異常の発見に関する事例は、サービス分野など他の産業全般にも適用できると思いますので、実例を踏まえた取り組み内容を紹介させていただきます。

【略歴】 名古屋大学大学院修士課程修了後、(旧)新日本製鐵(株)に入社。以降、おもに自動車用鋼板の製造管理に従事。2014年より、品質管理部にて、品質保証、品質管理、新商品開発を担当。

<事例講演> **ポジティブアプローチを基本とする品質マインド醸成のための 品質小集団活動のシステム化**



土屋 満智子氏
丸善石油化学(株)
営業本部 機能化学品部
品質保証グループ担当課長

【講演要旨】 丸善石油化学(株)は、基礎石油化学製品の製造・販売だけでなく、機能性樹脂事業として半導体フォトレジスト用樹脂やその周辺材料の開発にも力を入れています。半導体分野は非常に厳しい品質管理が求められており、同時に顧客側で欠陥や問題が起きないようにする保証活動も重要となります。当組織では、“品質保証は全ての「人」が関わってこそ成し得ることができるもの”という考えのもと、「組織一体での品質保証」を目指し、様々な活動を実施しています。

その1つ、内向きであった組織風土の改善を目指して2013年にスタートした品質小集団活動が、(一財)日本科学技術連盟が授与する2018年度日本品質奨励賞品質革新賞を受賞致しました。本報告では、組織変革に効果的な小集団活動のための基本コンセプト、活動を進めていく中で取り入れた手順やツール、実際の活動内容をご紹介します。

【略歴】 東京農工大学大学院工学研究科修士課程修了後、丸善石油化学株式会社に入社。機能性樹脂関連業務に従事。2011年から品質マネジメントシステム事務局として、組織風土改革を推進。